田舍源氏　三十五

へ13
3742
35

仙鶴堂藏板目録

字寶節用千金藏　大全書状案文

源氏百人一首宝文庫　女用文章色紙染

御家正流　子供案文

柳亭隨筆　還魂紙料　初編既刻　二編近刻

田舍源氏文筆のかゝ氏　上仕　廿八編目録書ようもちゐて編ごとに　中ほど略ごとの風俗の作ゝ新ぶ　なり　高年もつゝまれいつよ驚　おきやゝ作用形式

ほくも遊び戯人　種彦作書　小絵ごゝろ　百人秀歌画図　全二冊

昔咄　火鉢ばなし　全二冊

同　きちちゃんとうし　全二冊

同　浦島筆　全三冊

茶番のいろは　全二冊

昔咄　以三先年喜多川　必不近刻

楠判官　全三冊

同　おぐろくさ判官　全三冊

地本類東錦繪問屋仲間　鶴屋喜右衛門

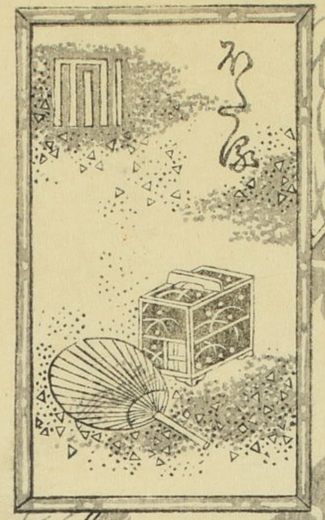
第世五編上巻　仙鶴堂梓

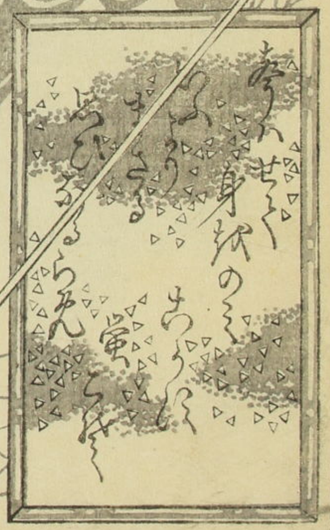
偐紫田舍源氏

種彦作　國貞画

傾繁四合
三十五編上
禮彦作
貝画
三十五編下

門へ13
號3742
巻35





偽紫田舎源氏第三十五編

虚を實と見せるは凡夫三千人の式部ひろう歌と実をうつそうそつきまゝ
ある事ばかりと齒ぐきとあせども是非なしとは其角が著しる
吉原源氏五十四君の序を書る述懐ありその名を隠して作者淺茅の尼と
記せと文式部小路のい幕の名を假しばかりに似られども紛白粉の
雪と玉屋黙人ふ向ひて面かぶり爭頭のいづべき丈文の老ぶるの
山風のおろし節陀羅尼とうもうのいちそやく此翁のぐし笑ふうう覺
ゐるめ母ゝの瓜强ゝうも最まづ尼ゞ實を説て蓮ふのれんゆ
歎ぜしいき力のゐるゞゐる娘い初編ふいひし如く歌のあ家へ松永岡安物語へ
實盛の絲ゝ谷ゝとい〻ふ高ぶけ色空言とゝんゝとゝそゝをを繕る妄語の罪ふ
沈あべ彼淺茅の尼公を誘ゞ田舎源氏の供養をゝのまん

天保十二年辛丑初春

柳亭種彦識

螢の巻の詞

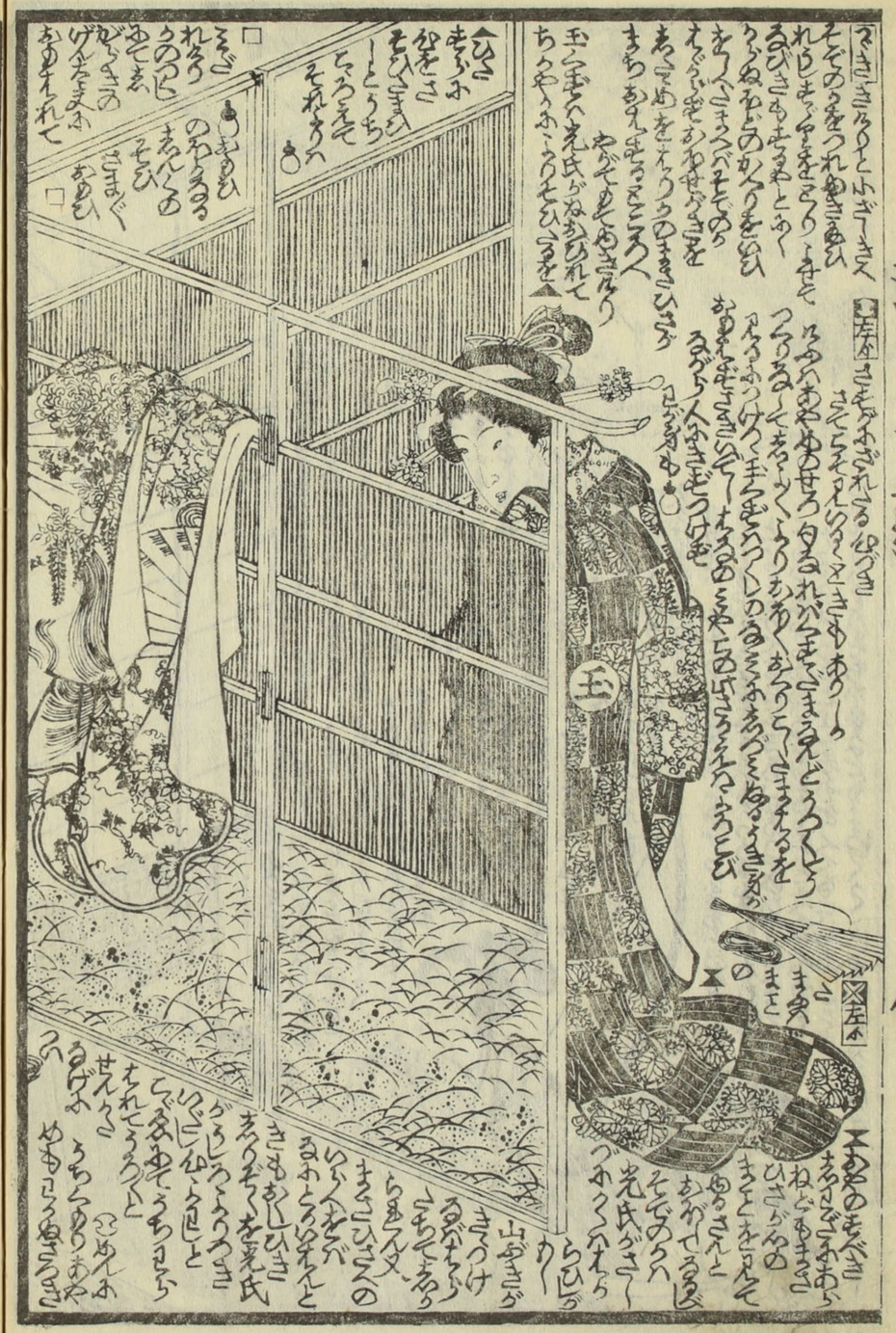
中将の君をこまさこそ
けごろくもとあり
きこえあくれど
ひあ君のゆ方ゆへ
さ〜えるちきこえ
こまそもぞ
るくまて〜こまふ　中略
まぐらそけける
雛あそび
あどの
けそこ▲

雲井之丞氏仲

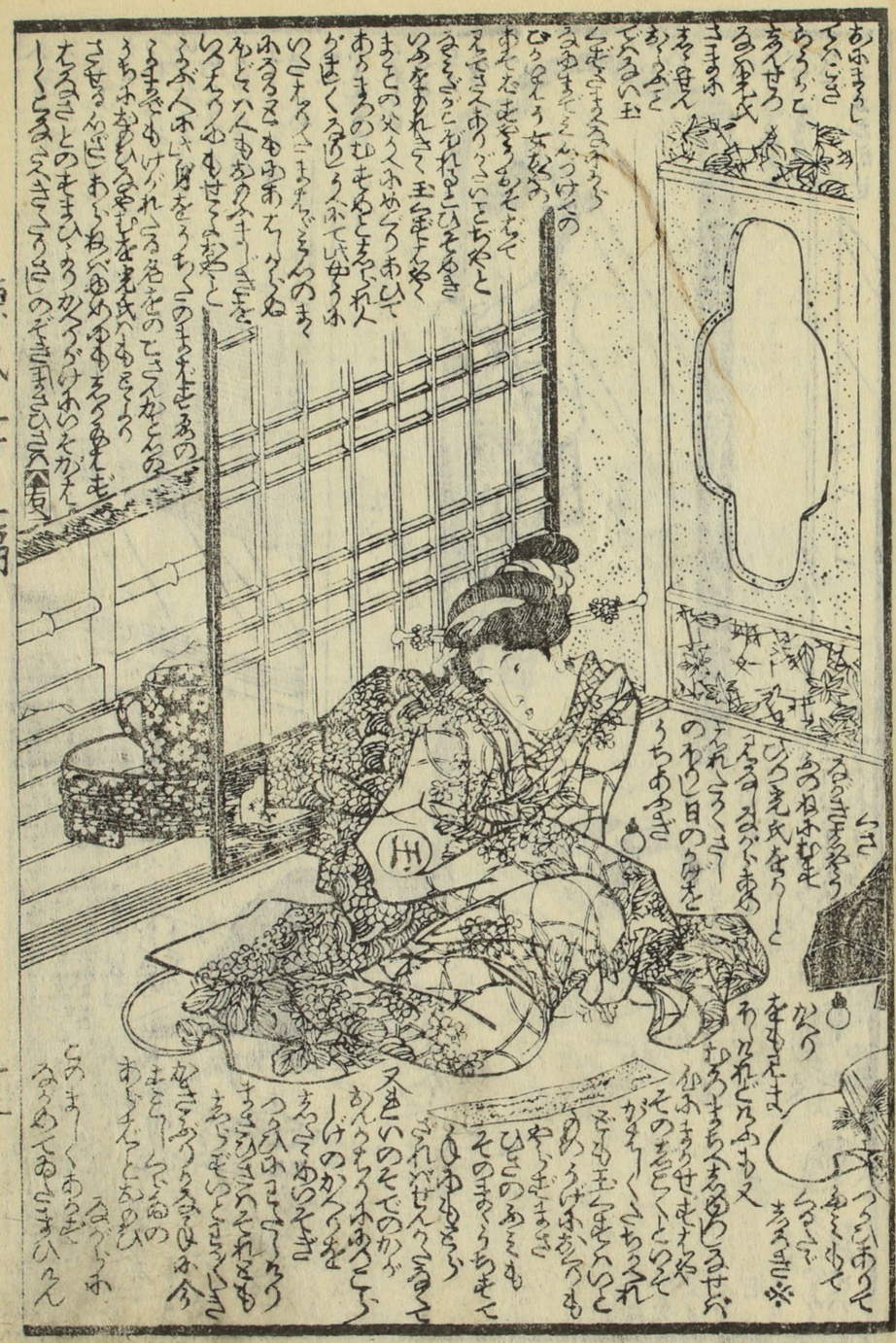
暇ある日ハ妹明石の
ほ口ぎ
仂して遊ぶも

あこ
あれば
の人
ともあ
ゆそびそ
もぐ
年月の
まぐ
そられむ
雛の
ろく
ひとく
もくく
まれ
あひ

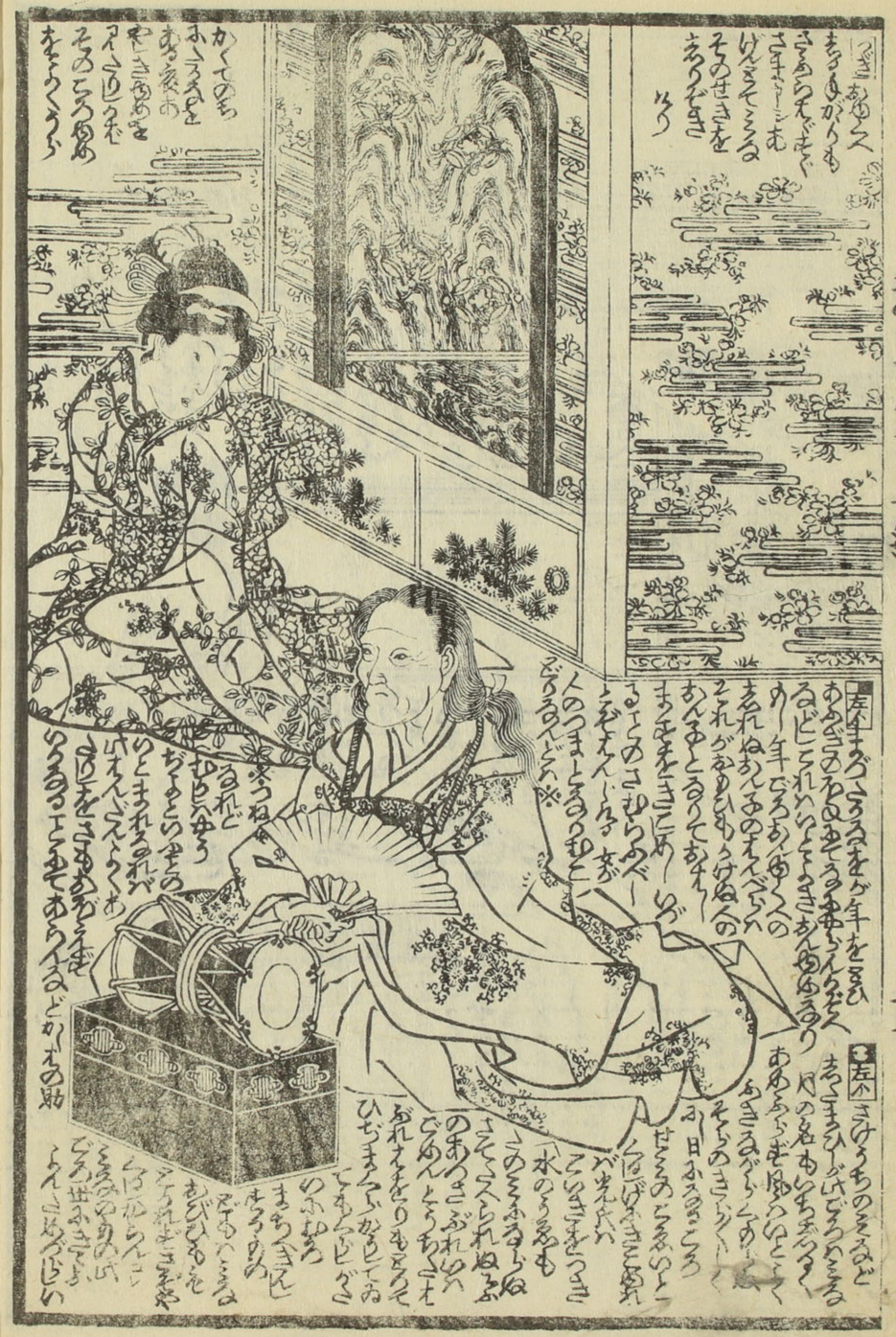
梅
尚書



國貞画　種彦作



左小 うちちらされ
ちまちひろう〳〵
吉満野の牧わらべ



偐紫田舎源氏

柳亭種彦作
歌川國貞画

三十四編の初めをあそばかぐらう初春ふうう下冊なりそのの巻とあり三十五編上冊のすえあの蛍の巻をつぎ下冊のをさそのの常夏あて三十六編上つゝ續き下冊おかぐを火ぐらつゝ二葉野ときも三十七編の上あて書きそなのとふ巻御幸ゝ次て篝ぐらあの三十八編ゝ書をさあさせ以上五帙の母の新板ゝの尋まぐゝ三帙製ゝ二帙ゝ母の正月ゝ春ゝ中ゝ五十四帖ゝ三十帖ゝ事過形制も今ゝ作見頁のりさゝ見そ戸ひくきを不お絵作もあ作紙後ゝを偏ゝ奉希ゝ

仙鶴敬白

作者の筆おのの
美艶仙女香
黒油美玄香
製所 南傳馬町三丁目西側 坂本氏 取次

書物錦繪
團扇地紙
問屋 江戸通油町 鶴屋喜右衛門